

令和8年度前期 豊府小学校学力向上プラン

1. 学力の現状

(1)【全国学力・学習状況調査の結果・分析より(令和8年4月実施6年生)】

国語					算数				
分類	区分	平均正答率			分類	区分	平均正答率		
		校内	県	全国			校内	県	全国
全体		69	63	60.9	全体		65	58	56.4
学習指導要領の内容	言葉の特徴や使い方に関する事項	80.1	69.9	66.8	学習指導要領の内容	A 数と計算	69.7	62.3	61.1
	情報の扱い方に関する事項	54.9	53.6	52.3		B 図形	65.8	56.5	55.3
	我が国の言語文化に関する事項					C 測定	84.9	77.9	78.1
	A 話すこと・聞くこと	68.9	66.9	65.8		C 変化と関係	48.2	39.1	41.1
	B 書くこと	58.2	45.4	45.7		D データの活用	57.2	50.6	48.6
	C 読むこと	70.1	68.5	65.9					
評価の観点	知識・技能	71.7	64.5	62	評価の観点	知識・技能	67.9	61.1	60.1
	思考・判断・表現	66.2	61.2	60.1		思考・判断・表現	57.9	48.3	45.4
	主体的に学習に取り組む態度					主体的に学習に取り組む態度			
問題形式	選択式	66.4	62.6	61.9	問題形式	選択式	63.7	57.2	56.0
	短答式	83.6	67.0	62.6		短答式	68.5	60.5	59.7
	記述式	64.5	58.9	54.9		記述式	59.9	52.0	48.5

【分析】
〈国・算共通〉
・全ての項目で、全国平均を上回っている。
〈国語〉
・「勉強が分かっている」と回答する児童88.2%に対し、「勉強は好き」と回答する児童は54.6%と低かった。
・「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうか」という趣旨の問題において、無解答率が10.5%と高かった。
〈算数〉
・「勉強が分かっている」と回答する児童80.3%に対し、「勉強は好き」と回答する児童は54.0%と低かった。
・「基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうか」という趣旨の問題において、正答率が基準値より+2.0と差が小さかった。

(2) 全校の単元末テストの平均点

		1学期	2学期	3学期
国語	知識技能	87.3%		
	思考判断表現	84.4%		
	教科平均	85.9%		

		1学期	2学期	3学期
算数	知識技能	84.5%		
	思考判断表現	82.6%		
	教科平均	83.6%		

【分析】
・学年ごとの結果としては、低学年は正答率が高く、学年が上がるにつれて正答率が下がっていく傾向にある。また、算数・国語ともに4年生が最も低くなっている。
・算数における、学年別の特に平均点が低かった単元は、1・2・3年生が「時刻と時間」、4年生が「大きな数」「わり算の筆算」、5年生が「小数のかけ算・わり算」6年生が「分数の計算(割合の計算)(約分・通分)」であり、苦手な単元の系統性や、全学年までの既習事項の定着に課題が見られた。

2. 学力向上推進計画(学力向上の具体的な取組について)

(1) 学校評価の結果から改善事項を共通理解して進める

【年間経営目標(達成指標)】

算数の低学力層(正答率50%未満)の割合を2%以下

【取組項目(具体的な取組の内容と目標値等)】

付けるべき力を明確にし、課題設定や振り返りで授業改善に努め「算数の授業が分かる」と回答する児童の割合を90% (1学期 92%)

学び合い活動や対話活動を取り入れることにより「ペアやグループ活動で分かたりできたりしたことがある」と回答する児童90% (1学期 93%)

質問タイムや振り返りの重視により「分からないことを先生に聞くことができる」と回答する児童80% (1学期 85%)

(今年度の重点)

①構造的な板書計画の作成
②学年の実態に応じて、まとめや振り返りを自分の言葉で書かせる。
③少人数指導や個別指導、習熟度別指導を充実させる。

①話し合い活動の目的や方法を明確にする。
②話し合い活動の時間配分を設定する。
③発達の段階や学年の実態に応じて、話し合いの形を工夫する。

①教師とこどもの、直接の対話やノートのコメントなどを通した交流による関係づくり
②積極的な机間指導と声かけ
③ロイロノートをはじめとしたICT機器を活用した振り返りと児童の実態把握

今後に向けて強化したい点

・①②③の継続
・デジタルドリルを活用した既習事項の復習
・授業の中で、考えを伝え合う活動や、自分の考えを文章に書いて表す活動を取り入れる。
・委員会活動などを通して、読書活動や図書館教育を充実させる。

・①②③の継続
・実態に応じた話し合い活動を実施する。
・意図的な座席配置やグループ編成を行う。
・発達の段階に応じて、話し合い活動の方法を考えさせたり、やり方を工夫したりする。

・①②③の継続
・一人では教師に直接聞けないこどものために、複数人でも同時に対応できる環境をつくる。
・困りが言えなくても、挙手など別の形で意思表示ができるようにする。
・分からない所は、休み時間に個別指導や補充指導を行う。
・学級経営の中で質問しやすい雰囲気や認め合える関係性をつくる。

(2) 小中一貫した授業力向上と校内研究体制の充実による授業改善

【目標】

児童・生徒の実態や課題に応じた「総合的な学習の時間」指導法の工夫・改善

【具体的な取組や活動】

①アンケートを通した実態把握

- ・小中一貫教育のテーマおよび目標、資質能力(3C:Collaboration Creativity Challenge) に沿ったアンケート調査の実施
- ・学年の発達の段階に応じたアンケート項目の精選
- ・アンケート結果をもとにした、取組内容の見直し

②3校で連携した研修の実施

- ・必要な研修の実施と還流
- ・3校合同での研修や互見授業の実施
- ・各校の実践や現状の報告と共有

③教材開発と教育課程、指導計画の見直し

- ・フィールドワーク等を通して、地域の実態把握と教材、人材の発掘
- ・教育目標に即した教育課程の見直し、作成

④小小と共通の「家庭学習のすすめ」を配布し、学習用具や持ち物、家庭学習のしかたを統一して指導